

初の観光大使に福留功男さん



法光院市長から、福留さん（右）に市産ヒノキ製の委嘱状が渡されました。表面には市内の鳴子業者が装飾を施しています。

10月27日、市役所香北支所で香北町出身の福留功男さんが、香美市初の観光大使に就任されました。

福留さんは元日本テレビアナウンサーで、テレビ番組の司会者やエグゼクティブプロデューサーとして活躍されました。知名度が高く、香北の自然公園への多額の寄付など、香美市への愛着心が強いことから観光大使への就任をお願いしたところ快く受けていただきました。今回の就任となりました。委嘱式には香美市イメージキャラクターも参加し、市内の施設割引機能付きのヒノキ製名刺と香美市の特産品セットを福留さんに手渡しました。福留さんは「この名刺はヒノキの香りがいい。配りがいいがある」と、香美市のPRに意欲を示してくれました。

名刺の表には香美市の観光地や特産品をモチーフにしたイメージキャラクター13体がデザインされています。名刺の裏には割引対象になる龍河洞や市立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアムなど、市内の観光施設が書かれています。名刺を持って2人以上で各施設を訪れると、2人目、4人目、6人目の入場料が無料になり、集客と市内での周遊効果が期待されます。



▲名刺には香美市ふるさと納税のHPのQRコードも貼られている

就任挨拶・メディアからの取材で、福留さんから故郷・香美市への深い郷土愛が語られました。



私を育てたのは香北町 美良布の町

私の祖父は医師でした。子どもの頃、よく一緒に馬にまたがり、往診に出

かけました。そのときの風景が懐かしい。この町は人がいい。空気もいい。物部川は今ほダムになりましたが、昔は香北にも川があつてよく泳いでいました。近所の子どもらと夜通し遊び、自分の家より他人の家でご飯を食べていた思い出があります。高知には少なくとも年に6回は帰ってきていま

した。忙しい頃でも3日休みがあつたら、香北に帰ってきていました。私のキャラクターであつたり、『いごっそう』のところを含めて、人格の全てを作ってくれたのは、この香北町の美良布の町。自慢のふるさとです。東京では蕪生米を食べています。ご飯でご飯が食べられるおいしいお米です。

アサギマダラサミットを開催したい

香美市をどのように発信していくか、これから考えていきたいですが、まず、どうしてもやりたかったことがあります。それは、アサギマダラサミットです。

『猪苗代』『福島』『宮古島』（沖縄）と羽に書かれたアサギマダラが飛んでいます。猪苗代の私の山荘で、なんと『美良布』『香美市』と羽に書かれたアサギマダラが飛んでいるのを見つけました。この3つをつなげて、この香美市でアサギマダラサミットが開けたらいいなと思っています。

■香美市観光大使

市議会の提案を受け、市で検討した結果、香美市の魅力を広く紹介し、市のイメージアップおよび観光振興を図るために、香美市観光大使制度を設けました。

■アサギマダラ

チョウ目タテハチョウ科マダラチョウ亜科

本種は長距離の渡りをするのが知られており、春から夏にかけては北方に、夏は山地の樹林で滞在し、晩夏から秋になると南方に向かう。なかには82日間で和歌山から香港までの約2500kmを移動した記録もある。

（出典：美しい日本の蝶図鑑）



▲香北の自然公園で撮影

①会場に集まった市の特産品を試食する福留さん。「私の子どものおいしい食べ物にはなかった」と仰っていました。②香美市イメージキャラクターも委嘱式に参加し、会場を盛り上げました。

